

## 海老坂武教授年譜

- 1934 年（昭和 9 年） 東京に生まれる
- 1959 年 3 月 東京大学文学部フランス文学科卒業
- 1961 年 3 月 東京大学人文科学研究科修士課程（フランス語フランス文学専攻）卒業
- 1961 年 4 月 東京大学人文科学研究科博士課程入学
- 1963 年10月 フランス政府給費留学生としてパリ大学文学部に留学  
～65 年 9 月
- 1966 年 3 月 東京大学人文科学研究科博士課程修了
- 1966 年 4 月 一橋大学社会学部専任講師
- 1968 年 4 月 一橋大学社会学部助教授
- 1978 年 4 月 一橋大学社会学部教授  
～96 年 3 月
- 1983 年 4 月 学習院大学文学部フランス文学科大学院非常勤講師  
～87 年 3 月
- 1996 年 4 月 関西学院大学文学部教授  
関西学院大学文学研究科博士課程前期課程指導教授
- 1997 年 4 月 関西学院大学文学研究科博士課程後期課程指導教授
- 2003 年 3 月 関西学院大学文学部退職

## 海老坂武教授業績

### 著 作

- サルトルとその時代 人文書院 1971 共著  
 否認の言語へのノート 晶文社 1971  
 パリ=ボナパルト街 晶文社 1975  
 パリの路上から 河出書房新社 1978  
 パリと北京 玉川大学出版 1981 共著  
 フランツ=ファノン 講談社 1981  
 戦後思想の模索 みすず書房 1981  
 雑種文化のアイデンティティ みすず書房 1986  
 シングル・ライフ 中央公論社 1986  
 私の“パートナー”へ 筑摩書房 1987  
 コンテストション 筑摩書房 1988  
 男という好奇心 筑摩書房 1989  
 思想の冬の時代に 岩波書店 1992  
 パリからの旅 中公新書 1992  
 ヨーロッパ新空間 人文書院 1994  
 女と男の未来形 ブロンズ新社 1994  
 記憶よ、語れ 筑摩書房 1995  
 中年は恋愛の適齢期 講談社 1998  
 新・シングルライフ 集英社新書 2000  
 〈戦後〉が若かった頃 岩波書店 2002

### 論 文（著作に収められたものをのぞく）

- メルロオ=ポンチの言語観をめぐって 一橋大学言語文化 No.4 1967

- サルトルの政治思想Ⅰ 一橋論叢 1975. 3 月
- サルトルの政治思想Ⅱ 一橋論叢 1975. 5 月
- 「唯物論と革命」と〈アンガジュマン〉 一橋論叢 1977. 8 月
- サルトルの革命民主連合 一橋大学研究年報人文科学 18 1978. 3 月
- 「共産黨員と平和」第二部をめぐって 一橋論叢 1978. 7 月
- ロシア革命と 20 年代のフランス文学・思想 文学 1979. 9 月
- 1920 年代のシュレーアリズム——ピエール＝ナヴィル『革命と知識人』をめぐって 文学 1981 年 7 月
- 1920 年代のシュレーアリズム——アンドレ＝ブルトン『正当防衛』をめぐって 文学 1982 年 4 月
- 〈暴力〉についての覚書——サルトル『倫理学ノート』を読む  
『彷徨の祝祭』朝日出版社 1986 に収録
- 五月革命における表現の問題  
『政治と芸術』—岩波現代芸術講座—内 1989
- 倫理とアイデンティティー 『倫理と道徳』—岩波書店— 1997. 5
- 評 論 (著作に収められたものをのぞく)
- サルトルへの新しい照明 週刊読書人 1964. 5. 22
- 世界の新しい作家たち：G. ミッシェル—社会的言語の侵入—  
日本読書新聞 1971. 9. 20
- 老いに対する静かな闘い 朝日ジャーナル 1975. 7. 4
- 生活のスタイルの変革を求めて—激増する日本語専攻学生  
のびのび 1977. 10
- サルトルとの一時間 筑摩世界文学大系 89 巻 1977. 10
- ユダヤ人問題についてのある情景 現代思想 1977. 11
- Le combat pour la liberte Magazine litteraire No 176 sep. 1981

パリ嫌いと〈陸の人間〉について     ロマン=ロラン全集月報 26 1982. 1

マルロオとニザン=植民地体験を通してヨーロッパを再発見

朝日ジャーナル 1982. 10. 15

〈反ユダヤ主義映画〉のレッテルをこえて

「ダニエル=シュミットの世界」1982. 11

独立後 20 年を迎えたアルジェリア     季刊 AALA No 3 1984. 3

敗戦後 40 年の年に     『奇妙な戦争 戦中日記』解説 人文書院 1985

愛の変貌     新潮 1987. 4

20 年間の思想状況     朝日ジャーナル 1988. 6. 3

フランスの文化と社会     『世界大百科事典』平凡社 1988

サルトルとフロイト     異常心理学講座月報Ⅳ みすず書房 1988

『家の馬鹿息子Ⅱ』解説     人文書院 1989

20 世紀芸術の夜明けⅠ     三田文学 No 39 1994 秋期

20 世紀芸術の夜明けⅡ     三田文学 No 40 1995 冬期

カリブ海のシュールレアリスム     三田文学 No 42 1996 夏期

1945 年の実存主義     『実存主義とは何か』Ⅰ—人文書院— 1996

サン=ジェルマン=デ=プレの黄金時代     三田文学 No 44 1996 冬期

コソボをどう考えるか     国民文化 1999. 5. 25

『ヴィクトール=シェルシェール伝』のこと     文学 1995. 春

20 世紀日記抄—J. P. サルトル『奇妙な戦争』 This is Yomiuri 1996. 8

吉沢氏の批判に答える     市民意見の会 1996. 11. 30

フランスの世論と核実験     軍縮問題資料 1996. 1

ペルー事件の報道に思う     国民文化 1997. 4. 25

橋口譲二の写真について     言語 1997. 10

50 年後の『文学とは何か』     『文学とは何か』—人文書院— 1998

プルーストとサルトル     Carnet Proust No 9 1999

曇り日の大聖堂 一枚の絵 1999. 7

森有正作品解説 『森有正エッセー集成 5』 ちくま学芸文庫 1999

時代との婚姻 『植民地の問題』—人文書院— 2000

書評（著作に収められたものをのぞく）

田島節夫：『実存主義と現代』 日本読書新聞 1963. 2. 4

竹内芳郎：『実存的自由の冒険』 一橋新聞 1963. 6. 30

サルトル：『反戦の原理』 日本読書新聞 1966. 8. 1

Frantz Fanon：“Peau noire, masques blancs” 一橋大学言語文化 No 3 1966

フランシス=ジャンソン：『現象学の意味』 日本読書新聞 1967. 12. 18

ピエトロ=キョーディ：『サルトルとマルクス主義』

日本読書新聞 1968. 10. 5

森川達也：『虚無と現代文学』 東京新聞 1969. 4. 28

竹内芳郎編：『文化と革命』 週刊読書人 1974. 6. 24

イワン=イリッチ：『学校なき社会』他 一橋大学言語文化 No 11 1974

鈴木道彦：『政治暴力と想像力』 現代の眼 1970. 6

メルロ=ポンティ：『意味と無意味』 日本読書新聞 1971. 2. 8

永畑道子：『女が愛に向かいあうとき』 マダム 1988. 7

タハール=ベン=ジェルーン：『歓迎されない人々』

エコノミスト 1994. 9. 20

フランソワーズ=サガン『逃げ道』 東京新聞 1997. 12. 14

アラン=ド=ボトン：『恋愛をめぐる 24 の省察』 東京新聞 1998. 4. 5

キョウコ=モリ：『悲しい嘘』 中国新聞 1998. 4. 6

朝西柁：『サルトル 知の帝王の誕生』 共同通信配信 1999. 4

## エッセイ

『トロイアの女たち』のドラマ 俳優座小劇場公演パンフレット 1966. 9

すすめたい書物 一橋大学小平学報 1968. 4

脱走兵通信発刊の辞 脱走兵通信 No 1 1969. 8

マトウラカージュ 中央公論 1973. 5

ニザン夫人をたずねて 東京新聞夕刊 1973. ?

映画で語るサルトルの〈わが生涯〉 朝日新聞夕刊 1977. 9

マルチニック紀行 世界 1980. 1

独立への壁——マルチニック島を訪れて 週刊ポストカード 1980. 2. 24

比較なき同時代人——サルトルの死 毎日新聞夕刊 1980. 4. 17

迫り来る時を意識した生の価値への限りなき願い——サルトル「いま希望とは」解説 朝日ジャーナル 1980. 4. 18

サルトル晩年の10年 朝日ジャーナル 1980. 5. 2

サルトルへの実感的回想 週刊読売 1980. 5. 4

北ホテル 世界の一流ホテル 1980

「ボーヴォワール自身を語る」——映画からの印象 読売新聞 1980. 6. 24

ネクラについて グランディ No 5 1981

フナックの討論会 Brutus 1981. 5

仏総選挙について えんぴつ 1981. 7

アフリカの遠さと近さ 聖教新聞 1981. 10. 13

なぜ今“民衆の科学技術”か 公明新聞 1982. 2. 13

第三世界の市民像 とともに No 5 1982

新しいパリの息吹 世界文化シリーズ『フランス』内 1982

本邦カレーライス事始め 『東京情報コレクション』講談社 内 1983

にせもの考 Penguin? 1983. 10

ボーヴォワール女史を追悼 中日新聞 1986. 4. 17

- 異文化理解とは 聖教新聞 1986. 6. 28
- 二人の同時代人を思う——ジュネとボーヴォワール 新潮 1986. 6
- 自著を語る『シングル・ライフ』 現代 1986. 8
- 明るく暗く際立った母親イデオロギー 朝日ジャーナル 1986. 12. 12
- 夜中の電話 毎日新聞 1987. 10. 20
- 单身居残り 鳩よ！ 1987. 12
- 退屈しない男たち 週刊朝日 1988. 2. 5
- 感動を「書き写す」という方法 三省堂ぶっくれっと 1988. 3
- 〈個人〉を手放していいか 毎日新聞 1988. 12. 10
- 女と男——いま新しい関係 婦人情報 1989. 3
- 言葉に敏感に 女性教養 1989. 9
- 89年7月の世界の首都 アサヒグラフ 1989. 9. 22
- マイナーなものに目をとめる パンプキン 1990. 1. 10
- 狂気の愛の物語／マイケル＝ニーマン トラン＝ヴェール 1990. 3
- パリの街について クロワッサン 1990. 4
- 南仏アヴィニョンのフェスティヴァル 神戸新聞 1990. 8. 27
- 無効な行為、無意味な出来事 よむ 1991. 6
- 私の新古典——『何でも見てやろう』 毎日新聞 1992. 2. 24
- 男から女へ パステル 1992. 3. 31
- 先を行く同時代人 鶴見俊輔集月報 12 1992. 3
- Bonne continuation 岩波ホールパンフレット 1992. 4
- 音楽のある風景パリ Concert notes 1992. 10. 25
- 私たちはどこへ行こうとしているのか  
岩波書店営業部だより 1992. 11. 11
- 「国際貢献」表現あいまい 朝日新聞夕刊 1993. 6. 3
- 愛の真実 『女と男の危機』パンフレット 1993. 12

- オルネラ=ムーティ賛江 Brutus 1994. 5. 15
- 文化を守るフランス 朝日新聞夕刊 1994. 7. 14
- 『林檎の木』の世界 毎日新聞夕刊 1994. 8. 2
- 南仏のシャンブル=ドット 旅 1994. 9
- フランスの田舎旅行 ZYX 『私の海外旅行術』——岩波書店 内 1994
- 考える・学ぶ 週刊ダイヤモンド 1995. 4. 5
- なす・丸かじりからラタトゥーユまで NHK きょうの料理 1995. 9
- 何といってもボリス=ヴィアン 朝日新聞 1995. 9. 4
- 本音のコラム 東京新聞 1996. 2. 2 ~1997. 1. 31 毎週金曜
- サルトルは超えられたか 毎日新聞 1996. 3
- イール=ダールの結婚式 月刊国語教育 1996. 4
- 進歩と反抗／やさしさ／セックスレス／ボランティア／羞恥心／誘惑者／可  
愛さ／嫉妬／お友達／女性の買物／ある風景／けちの神／背負う／外  
見／父親／同級生／40代／反抗／交換／別れ／断絶／長生き／カッ  
プル／背伸び / 中年と老年／さようなら
- 婦人公論 1996. 1~1998. 3
- シングルライフから見えてくるもの ほんとうの時代 1997. 1
- 好奇心と忍耐力他 読売新聞夕刊 1997. 3. 17~3. 22
- シュー=ア=ラ=クレーム 週刊朝日 1997. 3. 21
- 竹の子話 Dahlia 1997. 5
- リヨン音楽祭に思う 東京新聞 1997. 5. 2
- お米の味とお茶漬け 1997. 7
- 『放浪記』再読 PHP 1997. 11
- 作品解説『イスタンブール時はゆるやかに』 新潮文庫 1997
- 20世紀文学の極南 リテレール別冊 1997
- クラス定員と教師の余暇 『教育をどうする』—岩波書店—内 1997



学ぶということ 道標 1998. 3

苦しみを怖れて恋はできない／英語がしゃべれない／酒が飲めない／  
憎む相手がいる／男のメンツにかかわる

『人間関係小辞典』—兵庫県立女性 センター— 1998. 4

マルセイユ：明るい太陽、歴史を刻む街 日本経済新聞 1998. 4. 1

エイクス=アン=プロヴァンス：噴水にゆれる陽光

日本経済新聞 1998. 4. 8

アルル：ゴッホが描いた糸杉 日本経済新聞 1998. 4. 15

カマルグ：悲恋の物語の地 日本経済新聞 1998. 5. 6

レ=ボー：想像力をいざなう廃墟 日本経済新聞 1998. 5. 13

シエナ：広場のパリオに熱狂 日本経済新聞 1998. 5. 20

ヴェネツィア：迷路をさまよう喜び 日本経済新聞 1998. 5. 27

シチリア島：複数文化の持つ奥深さ 日本経済新聞 1998. 6. 3

キプロス島：夕日をのみこむ海 日本経済新聞 1998. 6. 10

クレタ島：きびしさと繊細さ混在 日本経済新聞 1998. 6. 17

イスタンブール：人間味あふれる街路 日本経済新聞 1998. 6. 24

リスボン（上）：白壁つらなる坂の街 日本経済新聞 1998. 7. 1

リスボン（下）：大航海時代の面影 日本経済新聞 1998. 7. 8

エルサレム：緊張と静寂が混在 日本経済新聞 1998. 7. 15

アルジェ：活力を失った旧市街 日本経済新聞 1998. 7. 22

パリ：自由の気風、喜びの朝市 日本経済新聞 1998. 7. 29

中年は再構築の季節 朝日新聞夕刊 1998. 6. 19

離婚願望 CREO 1998. 9

パリのクスクス 日本経済新聞 1999. 4. 14

父の本箱『ゲーテ全集』 東京新聞 1999. 5. 2

規則ではなく、くせ 本とコンピュータ 1999 春

- 音楽時評をめぐって Vrai 1999. 6. 14
- 裸の目を持つために 関学ジャーナル 1999. 7. 2
- 解体から選抜組み合わせへ 宝石 1999. 8
- 解説——知恵の書、そして生の喜び
- 『それでも恋がしたいあなたへ』—徳間文庫—内 1999
- 〈独身主義〉から〈結婚主義〉へ 図書 2000. 1
- モーニング・サービスの常連 ねんきん 2000. 3
- 〈Y2K〉の教訓 大法輪 2000. 4
- ダメなフランス、魅力あるフランス 図書 2000. 12
- アルジェリア戦争から考える 読売新聞夕刊 2000. 12. 28
- モロッコ旅行 嗜好 2001. 12
- テロの歴史はニヒリズム 読売新聞夕刊 2002. 7. 5
- 『ふたつの岸を結ぶ橋』 Winds 2002. 10
- 父の味、母の味 The Community 2002 No 130

## 講演記録

- サルトルの思想と私たち 高崎哲学堂講演集 1980. 9
- Presence de Frantz Fanon au Japon Actes de memorial international 1982
- ミッテラン政権と五月革命 国民文化 1983. 1
- 家族論 太子堂区民講座記録誌 1987
- 現代思想を考える——フランス〈五月革命〉に発して——
- 国民文化 1988. 6. 1
- フランス革命 200 年を迎えて 平民会議 1989. 9. 20
- フランス総選挙とジョスパン 国民文化 1997. 12. 25
- 大学と私 関西学院史紀要第六号 2000

## 対 談

- 合理主義を告発する 山本義隆と 情況 1969. 3. 臨時増刊号  
 サルトル——その人と時代 野間宏と 朝日ジャーナル 1975. 7. 11  
 文化の中の食 木村尚三郎と ロワジール 1983. 1  
 ミッテラン 紅いバラへの反抗 辻邦生と  
 朝日ジャーナル 1983. 6. 10  
 戦後思想と現状 橋川俊忠と 現代の理論 1986. 8  
 シングルライフの愉しみ 富士真奈美と 婦人公論 1986. 9  
 ブックポート対談 桐島洋子と Pas a pas vol. 60 1986  
 女と男の関係を語る 上野千鶴子と 週刊読書人 1987. 4. 13  
 個の時代 佐藤悦子と 家庭画報 1987. 4  
 シングルについて 増田みず子と 海燕 1987. 12  
 男女双方の自立と連帯 田中喜美子と  
 『これからの男の自立』——日本評論社—— 1988  
 妻はなぜ恋をしたがるか 田中喜美子と 婦人公論 1988. 9  
 〈五月革命〉が変えたもの 安東仁兵衛と 現代の理論 1989. 5  
 男にとっての家庭 高橋睦郎と クロワッサン 1989. 5. 25  
 結婚のどこがつまらないか 宮本美智子と 婦人公論 1992. 3  
 〈湾岸戦争〉以後を考える 栗原幸夫と AALA 1993. 1  
 社会党への絶縁状 三井マリ子と 婦人公論 1993. 4  
 ことばとアイデンティティー—境界をめぐる— 宇野邦一と  
 現代詩手帖 1995. 6

## 座談会・討論記録

- 揺れるヨーロッパの内側 朝日ジャーナル 1974. 5. 31  
 革命の作家のメッセージ 竹内泰宏、針生一郎、藤田進、アブトルハミー

- ドと \* フィラスティン びらーでい 1981 aug-sept. .
- ピカソが果たしたこと 神吉敬三、高見賢志郎、東野芳明と  
無限大 1981. 4
- 海外留学生 甘えの構造 平木典子、倉田保雄と 婦人公論 1981. 9
- 破局と変革の岐路にたつ世界 鶴見良行、芝生瑞穂、吉岡忍、粉川哲夫、  
針生一郎と 国民文化 1983. 1~2
- 中国の青年問題とサルトル 坂井臣之助、辻康吾と  
日中経済協会会報 1983. 6
- シンポジウム家族 櫻井陽子、大熊一夫、天野正子と  
たま 88 フェミニスト・フェスティバル 1988
- シングル化社会を語る 吉行和子、松岡和子、大間知靖子、マヌエル=リ  
トゥッゲンホルストと アクロス 1988 No 168
- いろんな生活の形 井上輝子、松永真理と 朝日新聞 1988. 2. 9
- 老いの国際比較 大村泰樹、袖井孝子と  
『いま問う男の老い』-日本評論社-1989
- どうするか、これからの教育 小田実、藤田邦彦と  
21 世紀市民の提言 2000. 3
- シングルライフの未来像 小谷みどり、松原淳子、田丸美寿々と  
読売新聞 2001. 6. 27

#### 翻訳 (個人訳)

- ポール=ニザン：番犬たち 晶文社 1967
- ダニエル=コーンバンディ：学生革命 人文書院 1968
- ジョルジュ=ペレック：眠る男 晶文社 1970
- モーリス=ブランショ：死ぬことのたやすさ パイディア 1970. 3
- フランシス=ジャンソン：もう一人のサルトル 晶文社 1971

- レオン=トロツキー：呪われた幻視者シリーズ 海 1971. 4  
 ポール=ニザン：危機の知識人 晶文社 1974  
 ジャン=ポール=サルトル：『サルトル自身を語る』 人文書院 1977

## 翻 訳（共訳）

### (1) ジャン=ポール=サルトル

- シチュアシオンⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ、Ⅹ  
 人文書院 1965～1977

否認の思想 人文書院 1969

サルトル対談集Ⅰ、Ⅱ 人文書院 1970

反逆は正しいⅠ、Ⅱ 人文書院 1975

家の馬鹿息子Ⅰ、Ⅱ 人文書院 1982、1989

奇妙な戦争 戦中日記 人文書院 1985

女たちへの手紙 人文書院 1985

ボーヴォワールへの手紙 人文書院 1988

文学とは何か 人文書院 1998

### (2) フランツ=ファノン

黒い皮膚・白い皮膚 みすず書房 1970

革命の社会学 みすず書房 1984

### (3) モーリス=メルロオ=ポンティ

シーニュⅠ、Ⅱ みすず書房 1969、1970

意味と無意味 みすず書房 1983

### (4) シモーヌ=ド=ボーヴォワール

別れの儀式 人文書院 1983

### (5) ダニエル=コーンベンディット

左翼急進主義 河出書房新社 1969

(6) ジャン=ジュネ

恋する虜 人文書院 1988

学会・社会における活動

日本フランス語フランス文学会会員

サルトル研究会会員

メルロ=ポンティ研究会会員

国際文学批評家学会会員

国際サルトル研究会会員

日本－フランス女性資料センター会員



海老坂 武 教授